



IMCJ

Innovation Management College of Japan

イノベーション 経営カレッジ2022

Innovation Management College 2022

DX時代の激流を生き抜く
ZERO to ONE 価値創造を

IMCJ 2.0

◆日程(2022年 第20期)

前半 10月 4日(火)~10月 7日(金)
後半 11月 8日(火)~11月11日(金)
総括 12月22日(木)予定

◆会場

前後半：軽井沢プリンスホテル
(長野県軽井沢町)
総括：都内会場

◆参加費用 (個室宿泊費・食事代含む。会場への往復交通費含まず)

参考(2021年度) 1名様 698,000円(税込)

IMCJ Challenge Camp

◆日程(2022年 第5期)

Day1 10月14日(金)
Day2 10月28日(金)
Day3 11月25日(金)
Day4 12月15日(木)
Day5 12月16日(金)
Day6 1月13日(金)
Day7 2月10日(金)
プレ発表 3月 3日(金)
最終発表 3月24日(金)

◆会場

JUAS会議室

◆参加費用 (会場への往復交通費含まず)

参考(2021年度) 1名様 327,800円(税込)



一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会
Japan Users Association of Information Systems

〒103-0012
東京都中央区日本橋堀留町2-4-3 日本橋堀留町2丁目ビル8階
TEL : 03-3249-4101 HP : <http://imc-j.jp/>
E-mail : im_college@juas.or.jp IMCJ担当

DXを志向した2つのプログラムで 明日のイノベーション経営の担い手を育成

» イノベーション経営カレッジ(IMCJ)とは

今日、世界中でパラダイムシフトが起きています。この激しい変化のなかで企業が存続していくためには、パラダイムに適応した新たなビジネスモデル、新しいビジネスプロセスを模索していかなければなりません。今や変革に不可欠な存在となったデータとデジタル技術。これらを武器として活用し、新しい価値を創造することが「イノベーション経営」です。そして、イノベーション経営を実現するうえで、人の心の変革も、欠かすことのできない重要なファクターです。

イノベーション経営カレッジは、「企業と人の心を変革するイノベーション」を実践する人材を育成・支援する場です。「プログラム」「コミュニティ」「ラボ」という3つの活動を通して、「イノベーション経営の普及・推進」に取り組んでいます。

このうち、「プログラム」IMCJ2.0では、2009年より、次代のイノベーション経営を担うミドルマネジメント層向けのプログラムを実施、のべ294名の卒業生を輩出しています。いずれも企業の中核を担う人材として活躍されています。また、Challenge Campは、異業種で共通課題について議論し、「既存ビジネスとデジタル技術を融合し新たなビジネスを協創する場」として、2018年に新たにスタートいたしました。

新たな価値を生み出せる、
マネジメントの仕組みづくり

IMCJ2.0

これからの組織経営を担う
幹部候補向けプログラム

出島スタイルの協創の場

IMCJ Challenge Camp

デジタルプロジェクトのプロセスを、オリジナル
フレームワークで体感する、出島スタイルの協創プログラム

» IMCJ Challenge Camp 7つのポイント

01. 出島スタイルの協創の場

JUASのプラットフォームを最大限に活かし、業界を代表する企業の組み合わせによる協創の場を提供、企業単独で取り組む事業創造では思いつかないアイデアから、顧客中心のビジネスをデザインします。

02. 異業種の化学反応

異業種メンバーの知恵と多彩な経験をぶつけ合って化学反応を起こし、新しい着想による事業構想を得ます。

03. 課題を企業共通課題 or 社会課題にリフレーミング

持ち寄った課題を、企業共通課題もしくは社会課題にリフレーミングし直した上で、異業種チームを結成して問題に取り組みます。

04. 顧客起点でのストーリー創り

最新テクノロジーに寄りかちなDXをカスタマー・エクスペリエンス起点で、アイデア出し、ストーリー創りを実施します。

05. デザイン志向をベースにしたオリジナルフレームワーク

3つのステージで、価値・アイデア(体験)・ビジネスモデル(実現手段)をデザイン。デジタルプロジェクトのプロセスをメソロジーと徹底したワークショップを実践するオリジナルフレームワークで、腹落ちするまで体感します。

06. 「わかる」だけでなく、「できる」「持ち帰れる」

5カ月のロングランサポートが生み出す「できた」実感、デジタルデザインメソッド・企画書・オリジナルムービーなどの成果物を持ち帰れます。

07. 価値検証コンセプトをムービーで表現

最終的には、デジタルプロジェクトに有効な価値検証コンセプトムービー(MVP)を作製。成果報告会でのプレゼンも実施します。

総合ナビゲーター：濱田文吾氏



》 IMCJ 2.0 プログラムの構成と特徴

実践的

「守(前半)」「破(後半)」「離(総括)」という3つのステップで実践力を磨きます。

体系的

社会環境をふまえ、今～数年後に変革を担う人材に必要な知識や考え方を体系的にプログラムに盛り込んでいます。

ここでしか聞けない

講師陣は日本を代表するCEOやCIO中心。その経験とノウハウ、マインドを惜しむことなく披露していただいています。

企業を超えたネットワーク

終了後も同期生だけでなく、他の期の受講生や講師陣との様々な情報交換を支援。

プログラムの評価

1～18期を通し、受講された方の満足度は、「とても満足」が約9割。また9割以上の方が「是非他の方に推薦したい」との評価いただいています。



》 IMCJ 2.0 カリキュラム例 (2020年第18期)

	AM1 9:00-9:30	AM2 9:40-12:10	PM1 13:30-14:20	PM2 14:40-15:30	PM3 15:50-16:40	PM4 17:00-17:50	PM5 18:10-19:00	
前半	1 目		オリエンテーション 「イノベーションリーダーへの期待」 JUAS 専務理事 菊川 裕幸		講義「アフターコロナ、withコロナにおけるデジタル化の潮流と情報システム部門が取るべき施策」 株式会社インプレス 編集主幹兼ビジネスメディア事業部長兼 IT Leaders編集部プロデューサー 田口 潤氏		交流会	
	2 目	前日 振り返り	ケーススタディ 「リーダーシップ・組織デザイン・マネジメント変革」 株式会社ヤッホーブルーイング 代表取締役 井手 直行 氏	ケースメソッド 「基幹システムの刷新(レガシーシステムからの脱却)」 日鉄ソリューションズ株式会社 営業統括本部 プロフェッショナル 早稲田大学大学院商学研究所 (MBA課程) 招聘講師 鎗水 徹 氏		講義 「デジタル化による産業構造変化とビジネスモデル」 エミネンスLLC 代表パートナー 今枝 昌宏 氏		
	3 目	前日 振り返り	ケーススタディ 「データドリブン経営～SCMとMKに開する情報活用」 元 花王株式会社 大路 延憲 氏	ケーススタディ 「日産自動車におけるデジタル戦略 その成果と今後～ビジネス変革への挑戦～」 日産自動車株式会社 グローバル情報システム本部 理事 能丸 実 氏		ケーススタディ 「アフターデジタル時代のショッピングセンター」 株式会社バルコ 執行役 グループデジタル推進室担当 林 直孝 氏		
	4 目	前日 振り返り	ケーススタディ 「デジタルトランスフォーメーション」 三井不動産株式会社 執行役員 古田 貴 氏	講義 「デジタル時代に向けた企業内変革」 株式会社アイ・ティ・アール 会長/エグゼクティブ・アナリスト 内山 悟志 氏	オリエンテーション			
後半	1 目		オリエンテーション		講義・ワークショップ 「デザインイノベーション」 株式会社 Gene-Insight デザイン&イノベーション アドバイザー 佐藤 千里 氏			
	2 目	前日 振り返り	ケースメソッド 「ANAグループが実践するデジタルトランスフォーメーション～人財とデジタルの融合～」を 目指して～」 国際大学GLOCOM 櫻井 美穂子 氏	ワークショップ 「既存ビジネスの変革 デザインキャンパ」 花王株式会社 情報システム部門 濱田 文吾 氏				
	3 目	前日 振り返り	講義・ワークショップ 「IT組織のデジタル戦略」 株式会社NTTデータ経営研究所 エグゼクティブオフィサーデジタルビジ ネスデザインセンター長 三谷 慶一郎 氏	講義 「データと人工知能の最新動向と活用事例」 デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社 執行役員 森 正弥 氏		ケーススタディ・ワークショップ 「イノベーション志向経営」 コニカミノルタ株式会社 常務執行役 市村 雄二 氏		
	4 目	前日 振り返り	講義・ワークショップ「イノベーション経営の世界的動向の変化」 一般社団法人 Japan Innovation Network 専務理事 イノベーション 加速支援 グループ長 西口 尚宏 氏	ケーススタディ 「グローバルITガバナンス」 リコー ITソリューションズ株式会社 代表取締役 社長執行役員 石野 晋之 氏		総括に向けて& オリエンテーション		
	総 括						発 表	
								修了式

IMCJ 2.0

18期 (2020年度)

参加者の感想

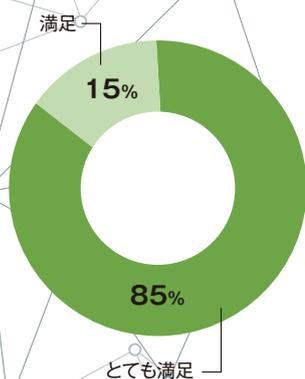
18期参加者からのコメント

- 知識の吸収の面と変革に向けた自らのモチベーションアップに有効
- 情熱に火をつけるのは容易ではないと思うが見事に火をつけられた
- 「その考え、発言の主語は自分か?」これはどのセッションにも根本にあることだった。
- 「自分でやる」これを忘れずに行動したい。
- 組織構造の話、アイデアを出す場合などのテクニック・トレーニング、課題発見・洞察など盛り沢山だった。
- ほとんどの講師の方が、経営トップとの関わりや、データについて触れられていた印象で、いずれも重要事項だということを再認識した。
- メディアからコンサル、実業をやられている会社の役員、取締役など、幅広い立場の方から、いろいろな情報をインプットいただけるのは、この場しかないと感じました。特に実業の役員・取締役の方々の話は失敗談も含めて実感が伴っているものが多くとても参考になりました。
- バラエティに富んだ講師の方々からの話がとても面白く、また刺激的であった。実際、かなり自分の意識が変わるきっかけになった。
- 素晴らしい講師陣より集中的に貴重なお話が聞けて、意識を変える大きなきっかけとなった。また、各社から参加された素晴らしい仲間と同じ時間を共有できたことは今後にもつながるように感じている。
- ワークショップを通じて異業種の方々と自由に意見交換することができ、同じ悩みや取組み点を共有する貴重な機会を得られた。また、日常と物理的に異なる環境に身を置くことで、現業を離れた位置から眺めることができた。

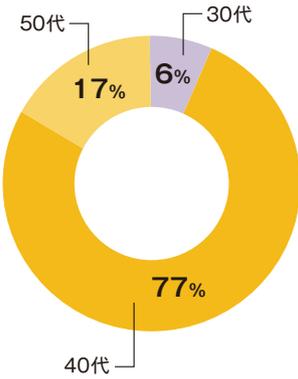
企業推薦者の期待

- 当社のリーダを担う人材であり、本研修を通して他業種との交流により視野を広げるとともに物事への考え方を深めてほしい。
- 当社の財務経理部門の責任者です。IMCJを受講し、顧客および当社のデジタル変革に対する事業部門の取り組みを理解し、経営幹部として会社をリードするための力にしてほしいと期待しています。また講師の先生方、参加企業のメンバーの方々との交流を通じ、将来につながる人脈づくりに役立ててもらいたいと思います。
- 次期、部門の牽引者として、活きた問題解決力を磨き、自部門の、ひいては自社の変革を主導する人材として期待している。

■ 全体評価 (1~18期)



■ 参加者の年齢層 (1~18期)



IMCJ Challenge Camp

実績と参加者の感想

90%以上のメンバーが下記を体験

- 他社メンバーからの刺激やそれによるマインドの変化があった
- 様々な業界の多様な視点が入ることによる発想の広がりがあった
- 視野の広さ・視座の高さ・視点の鋭さへの影響

いいね!
90%以上

参加者からのコメント

- ゴールからの逆算ではなく、色々なメソッドから価値やアイデアを積み上げて解決策を創出するやり方は、普段は行っていないのでよい体験となった。また色々な思考のトレーニングは日々の生活で意識することによって今までとは違う視点で既存のビジネスを見られるようになった。
- サービスを1から最後まで一連で、やったことがなかったため、良い経験となったと同時に、新サービスを生み出すことの難しさを知ることができた。
- 一旦具体を思考してから、抽象度を上げて再度既存のモノ・サービスをマッピングする作業は、具体→抽象→具体と直観的に解決策などを思考するのではなく、課題に対して有効な解決策を効率よく導き出すのに役立つと感じた。
- 自社で今回のようなワークショップの場合、本業にどう結びつけるかという思考になってしまう。様々な企業の方と一緒に活動できたことで、今までよりもフラットにユーザーのことを考えることができた。
- 日常の業務では体験できないカリキュラムで、人としての幅が広がったように思う。ここまで徹底した体験型プログラムを他には経験したことがなかった。

派遣企業責任者からのコメント

- 社外の方とアイデアを出し合っ一つのものにまとめていくプロセスが、実業務にもとても生きると思う。自分の会社で、周りの同僚にもこの経験を伝えていって欲しい。
- 日常業務を離れて、かなり頭に汗をかいたことと思う。徹底的に考え抜く経験は、なかなかできず、貴重な財産になると思う。

